

第3回ステークホルダーミーティングに向けての意見書

NPO法人グリーンコンシューマー東京ネット
理事 善財 裕美

気候変動に対する対策をたてるにあたり、私たちに与えられている時間は既にごく僅かとなっているように感じます。

昨年末のバリ会議での様子を見るまでもなく、日本の政府はお題目は唱えるけれど何ら実効性のある提案は出来ないでいます。1個人の行動、1企業の取り組みももちろん大切ですが、仕組みとして全体で取り組んでいくことが重要で、東京都の提案である、総量削減の方針は支持したいと思います。日本中に影響を与える可能性の高い東京がまず、率先して行動しましょう。

先日、上野不忍池での環境学習の際、子どもたちから「地球温暖化を止めるための行動は今からやっても間に合うのか？」と質問が出ました。毎年同時期に行っている水鳥観察ですが、今年は池に氷もなければ、水鳥の姿も例年に比較して、極端に減少していたからです。小学生ですら、自分の行動が影響を与えていることを認識して、何か行動しようとしています。利便性を享受してきた世代はもっと切実に温暖化ガス排出削減に向けて行動しなくてはならないでしょう。

対策は「出来るだけ早く、効果的に行う」ことが今、求められています。将来の世代のためにみんなが同じ方向を向いて行動すべきだと考えます。経済界の方、産業界の方も、それぞれ次世代、次々世代を家族に持つ個人だと思います。彼らの時代から振り返って、「何故あのとききちんと対策を立てなかったのか」「想像力欠如の時代」などと言われることは願ひ下げです。

何事においても政治が主導権を握って良いものではありませんが、気候変動との戦いは政策がなくては勝てない戦いだと思います。東京都には果敢に進めてくださることを期待します。